

消化器腫瘍の免疫組織化学的・分子病理学的検索

1. 研究の対象

当センター中央病院において診療を受けた患者さんから、1985年～2028年3月に手術などで切除し、病理診断に用いられた後の残余組織を利用させて頂き、本研究を行います。なお、包括同意「検査試料、生検組織、摘出標本等の研究利用に関するお願い」が当院で始まった2002年（平成14年）1月以降の患者さんについては、その包括同意に同意して下さった方のみを対象といたします。ただし、この対象になる方々であったとしても、下にあります連絡先に研究へ利用をお断りのご連絡をいただいた方の残余試料は研究に用いません。

2. 研究目的・方法

病理組織診断は病変から採取された組織を顕微鏡下に検査し、病変の有無や性質など診断を行うもので、腫瘍の確定診断に中心的な役割を果たしています。近年の遺伝子変異・発現解析の進展により、種々の消化器腫瘍における分子病理学的背景が明らかにされつつあり、今後、このような検索をさらに進めていくとともに、これらの知見を病理組織診断の精度向上や、悪性度診断等に結びつけていく事が期待されます。

本研究では主に消化管腫瘍の病理組織診断への応用を目的として、腫瘍の遺伝子変異・発現および蛋白発現の統合的な解析を行います。これらの結果と病理組織所見および臨床病理学的所見との相関を明らかにする事で、組織病理診断や分子病理学診断に応用可能な、新たな組織型特異的マーカー・予後因子の探索を行います。

研究期間は2013年06月07日～2028年06月06日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：手術などで切除し、病理診断に用いられた後の残余組織 等

情報：年齢、性別、採取部位、病歴、病理診断結果 等

4. 試料・情報の公表

学術論文発表および学会発表、ならびに学術的データベースへの登録の形で実施します。学術的データベースとしては、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）バイオサイエンスデータベースセンター（NBDC）が運営する「ヒトデータベース」、および日本医療研究開発機構の事業で構築されるデータベースであるAGD (AMED Genome group sharing Database)、MGeND (Medical Genomics Japan Database)、CANNDs (Controlled shARing of geNome and liNical Datasets)などが挙げられます。また、これらのデータベースでは、データアクセス申請を承認された研究者に対して、国際的にデータが共有される可能性があります。

5. 研究組織

国立がん研究センター 中央病院病理診断科 橋本大輝
慈恵会医科大学 病理学・慈恵会医科大学附属病院 池上雅弘

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：橋本 大輝

国立がん研究センター中央病院 病理診断科

連絡先：東京都中央区築地 5-1-1

電話 03-3542-2511

研究代表者：

国立がん研究センター中央病院 橋本 大輝